

第3回「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」片山雅史展-楽園へ/メメント・モリ

2015年11月28日(土) - 12月23日(水・祝) 休廊月曜

近年、和紙に墨を使って筆で描く手法で作品を発表している片山雅史氏の新作展です。片山は、前回発表の命を無限に紡ぐ「螺旋」と同じ手法で描いた「ひまわりの花の中心」や「幾重にも重なり合う蝶で描かれた轆轤」、「鯉」等を対比させることで内包する命(生と死)について「メメント・モリ(死を忘れるな)」と問いかけます。

*11月29日(日)午後3時から作曲家池田明子氏と片山氏との作品による、音楽と美術のコラボレートを発表いたします。詳しくは、お問い合わせください。(無料)



楽園へ/メメント・モリ 2015 部分 和紙、墨、雲母粉



鯉魚登龍図-アルカディアへ 2015

GALLERY SHIRAKAWA

京都 ギャラリー白川

開廊時間 12:00-18:00 休廊月曜、11月14日(臨時)

※10月12日、11月23日(月・祝)は開廊

605-0822 京都市東山区祇園下河原上弁天町430-1

TEL 075-532-2616 FAX 075-532-2617

430-1 Kamibenten-cho Gion Shimogawara

Higashiyama-ku Kyoto 605-0822 JAPAN

Telephone +81-75-532-2616 Facsimile +81-75-532-2617

E-mail info@galleryshirakawa.com

URL http://www.galleryshirakawa.com



ギャラリー白川 新シリーズ企画展

ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ

第1回 三樹正典展-市松模様を描く

2015年9月19日(土) - 10月12日(月・祝)

第2回 漆・陶・ガラス造形作家三人展

栗本夏樹(漆造形)、大平和正(彫刻家)、石川くるみ(ガラス造形)

2015年10月24日(土) - 11月23日(月・祝)

第3回 片山雅史展-楽園へ/メメント・モリ

2015年11月28日(土) - 12月23日(水・祝)



三樹正典 桜下亭 襖絵「秋」2014

京都 ギャラリー白川

「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」

シリーズ誕生について

現代において「日本の美」を追求していくと、「日本の美」が生き生きと目に映る時代があります。「江戸時代」です。鎖国の中で豊かに「日本の美」が成熟したこの時代に視点を戻し、江戸時代に花開いた「日本の美」を現代へと繋いでいくことが新たな「日本の美」への創造へとつながっていくのではないかと。この思いが、同じような視点で「日本の美」を創造していこうとする現代作家の皆さんを紹介する展覧会のシリーズを誕生させることになりました。さらに、この思いを深めさせたのは、ギャラリー白川が10年間開催してきた「現代アートうちわ展」です。うちわの歴史は古く古墳時代からあるのですが、それは庶民の物ではありませんでした。しかし、江戸時代に入ると、庶民の間で生き生きと「うちわ文化」が花開きます。今まで縦目線で追っていた「うちわ」の歴史を横目線で見渡すと、そこには「うちわ文化」だけでなく、浮世絵や、歌舞伎や、大衆文学を生み出した江戸という時代があり、それらは琳派へ、光悦へととり着きます。

「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」、長年温めてきた企画のスタートです。ご高覧くださいませ。

ギャラリー白川 池田真知子

ギャラリー白川の「ジャパニーズ・モダン」の定義
日本の伝統的なデザイン・素材・技術を用いて再構成された現代美術

第1回「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」 三樹正典展 - 市松模様を描く

2015年9月19日(土) — 10月12日(月・祝) 休廊月曜 ※12日(月・祝)開廊

第1回目に紹介する作家は、三樹正典氏です。今、彼は、お寺や茶室など歴史的な和の建物空間を彼の現代アートで再構成していく制作に取り組んでいます。2012 桜下亭(広島:重森三玲作庭茶室) 蘭島閣美術館(白雪楼・広島) / 2013 瑞峯院(大徳寺・京都) 明喜庵(爽籟軒・尾道) ひろしま美術館壁画(広島) / 2014 明星院(広島:上田宗簡流和風堂写) 和心庵(広島市植物公園) / 2015 頼山陽史跡資料館居室(広島) 専立寺(広島・吉和) 妙正寺(三原) 等です。今展では、三樹の手がけた作品の紹介とあわせて新作を展示いたします。ギャラリー白川では3回目の個展となります。

なお、今展を記念してギャラリー白川の隣の町家料亭つじ華の「みざくら」の間に「さくら」の襖絵を描きました。(但し、こちらは、お食事をしないとご覧できません。)



頼山陽史跡資料館居室 襖絵



頼山陽史跡資料館居室 襖絵

第2回「ジャパニーズ・モダン 江戸から現代へ」 漆・陶・ガラス造形作家三人展

2015年10月24日(土) — 11月23日(月・祝) 休廊月曜・14日(臨時)



◆栗本夏樹(漆造形)

9000年の歴史を持つ日本の漆は、欧米では「Japan」と呼ばれ、室町時代にはほぼその技術は完成され、江戸時代には琳派の創設者本阿弥光悦も素晴らしい蒔絵を残しています。

現代の漆造形作家を代表する栗本夏樹氏は、漆の持つ日本的な美しさと現代的な素材を融合させた新しい漆造形の可能性を追求しています。

今展では、栗本氏の代表作のシリーズ・上杉の胴服(車のボンネットを素材に漆で装飾した現代社会を反映させた作品)等を中心に展示し、合わせて小品も少し出品する予定です。

◆大平和正(彫刻家)

大平和正は、2001年には、伊賀入道谷の70haの広大な空間に半年間作品を設置した「風還元」。2014年には「巨大な直径4.1mの土の球体」を完成させ、2015年には全国各地の自然空間に巨大球体を移動展示するなど、従来の陶芸の域を超えた環境造形を発表。焼き物の可能性を広げてきました。

今展では、「銀彩」シリーズの風器と合わせて「球体」シリーズの小品を展示致します。



◆石川くるみ(ガラス造形)

Kurumi Glassの名でアメリカで活躍するガラス造形作家・石川くるみは、近年、ジャパニーズ・モダンを取り入れたガラス作品を次々に発表。歴史の浅い板ガラスの世界に新技術を吹き込みます。

今展では、新作がアメリカより届きます。進化し続けるKurumi Glass、ご覧ください。